

星が地域を活気づける!

スタービレッジ阿智誘客促進協議会が最も注意を払ったのは「結局、儲かっているのは温泉旅館とスキー場だけじゃないか」という声だ。地域の人たちの疎外感をなくし、集客効果を広く還元するため、ツアー以外にもさまざまな取り組みを率先して行ってきた。

地域通貨事業では、観光客が利用しそうな布団店や畳店にもあえて協力を呼びかけている。話題づくりの意味もあるが、村民

間の流通も意識してのことだ。

星空に徹底的にこだわり、原付バイクのご当地ナンバーも星のデザイン。オリジナルの酒は、星空のイメージと若者の嗜好を意識したシードルと発泡系日本酒。

伝統の朝市は独自の路線を守る。若者を意識した商品はほとんどない。それでも人気があるのは、田舎の当たり前こそ刺激に満ちた旅情だから。星空と同様、日常とのギャップにこそ魅力があるのだ。



◀阿智村60か所ので使える地域通貨「スターコイン」。1枚が500円に相当。村内ではボランティア活動の参加者へのお礼などにも使われている。⑥原付バイク用ご当地ナンバー。2種類の星空デザインから選べる。



↑星空をテーマにしたお土産品も続々と開発中。ここでも重視されるのはストーリー性とクオリティーだ。



↑一年中開かれている朝市。星空ナイトツアーの人気が高まってからは若いカップルや親子連れの姿も増えた。

次は泊まりがけで星空を見たい

が呼び覚まされることに、多くの参加者が驚いた。天体望遠鏡は自分で操作ができる。あつという間に月が視界から逃げる様子を経験し、天体が動いていることをあらためて理解する人も少なくない。山麓駅の壁や床を立体スクリーンにできるプロジェクションマッピング技術を使った「デジタル宇宙体験」も、代替策から生まれたプログラムだ。いずれも評判がよく、今では独立プログラムにもなっている。

「晴れているときも解説はなるべく短めにし、最初に星の神話を題材にしたアニメを上映します。それ

2014年に「恋人の聖地」の認定を受けてからは、山頂でポーズをする人が急増。一生の記念になるよう、村は星空をデザインした婚姻届も作った(どこの自治体にも提出できる)。

カップルの心をつかみ、今やプロポーズの聖地に

れが終わるとカウントダウンを始め、ゼロで電源を落とします。空いっぱい星のきらめきが見えた瞬間、どよめきが沸き起こります。2000人も参加した日は地響きかと思うくらい。感動のあまり泣き出す若い女性もいます」



↑派生効果として生まれた新しい「空ツアー」が、初冬の夜明け前に高確率で見える雲海。この美しさも格別で、人気上昇中だ。

「参加者は2015年には6万人を超えました。大多数は日帰り客ですが、リピート率が非常に高いのが特徴です。今度は温泉宿にゆつくり泊まって星空を見たいという人が多く、明らかに宿泊者層は若返っています。朝市に出店している地元の高齢者も、孫のような年のお客さんと話ができるようになり楽しいといっています。星をイメージした地域通貨を発行し、地域に広くお金が還元される仕組みも取り入れました」

熊谷秀樹村長(48歳)は、星空が作ったこの好循環を、ぜひとも定住につなげていきたいと語る。「外の人がいつか住みたいと憧れてくれる。生まれた子供たちが外へ出ても誇りに思ってくれる。そういう村でありたいと思います」

星に願いをかけた人たちが紡ぎあげた地域活性神話。それは小説のように痛快で爽やかだ。

RURAL SCOPE

星空が教えてくれた 宿泊者目線のサービス

日本一の星空を見るために多くの人が訪れるようになったことで、斜陽化していた昼神温泉郷に活気が戻った。温泉街には浴衣姿で歩く若い親子連れやカップルも少しずつ増えている。こうした

変化を呼んだもうひとつの背景が、サービスのありようそのものを考え直そうという動きだ。

たとえば旅館の夕食時間。夜6時より前に提供することは、懐石料理が主体の従来のシステムではかなり難しかった。しかし、星空ナイトツアーの人気の高まりとともに宿泊客目線に立つて柔軟に対応してくれる宿が徐々に増えてきた。早い時間から、しかも手早く食べられるメニューの導入である。

山の上で快適に過ごしてもらうために、無料でシートや防寒着を貸し出す宿、帰ってから感動の余韻に浸れるよう、部屋に天体望遠鏡や星の図鑑を置くようにした宿もある。

地域通貨もよい意味での変化に貢献している。ネット予約の時代に入ってから、キャンセルが出た部屋を安い価格でセールする宿が増えた。いわゆる訳ありプランだ。部屋は埋まるものの、宿本来のサービス価値は理解されにくい。表示はあくまで定価。実質的な値引き分は星をイメージしたデザインの地域通貨で還元し、村内の店で使ってもらう仕組みは、宿泊客からも地元の人たちからも歓迎されている。